くまがや

農委だより

No.86
令和8年
10月1日発行



百歳農園食堂

6次産業化

トマトジュース・トマトジャム



農林水産大臣賞受賞

太陽のめぐみいっぱい

さ

since 1959

さかた園芸

直売所



6次産業化

百歳農園食堂

髙島 悟さん、和子さんご夫妻

ご自身の体調不良を機に食の大切さを実感し、平成29年に就農した髙島 悟さん。妻の和子さんと共に米や野菜、大豆を育てています。

就農当初から考えていた自家栽培の農産物を使った食堂が開店したのは3年前。自慢の日替わりランチは、自家栽培の玄米ご飯や自家製味噌を使ったみそ汁、旬の野菜などを用いた11種類のミニ総菜が並びます。なかでも自家栽培大豆の納豆やテンペ(インドネシアの発酵食品)はランチの定番のおかずです。容器を持参いただければお弁当として持ち帰りもできます。「お米が美味しい」、「総菜が豊富」と幅広い世代から喜ばれています。また、店内では自家栽培小麦のうどんや大豆も販売しています。

食堂の営業は農作業の負担にならないように週2日、日曜・月曜の11時から15時です。

毎月第3日曜日は食堂駐車場でパンやコーヒー販売、ハンドマッサージなど毎回違うジャンルの5店ほどが集まる「カインドマーケット」も開催。人とのつながりを大事にすることで地域農業や中小農家を守り、農産物を通じて近隣農家と協力していきたいという思いを持っています。

「手間を惜しまず作ったものは美味しい」と語る妻の和子さん。百歳農園食堂で季節ごとに変化する旬の味を、是非味わってみてください。



6次産業化

トマトジュース・トマトジャム

さかた園芸　坂田　久美子さん

さかた園芸は久美子さんの父の代からトマト栽培を始めて65年以上になります。現在は夫の正美さんが跡を継ぎ、家族で農園を営んでいます。

子育ての傍ら家業を支えて25年以上になる久美子さん。平成28年に埼玉県の「第1期農業女子キャリアアップ講座」を受講した久美子さんは、講義での内容や既に6次産業化を進めていた受講生のアドバイス等により自家製トマトを使ったトマトジュースを委託製造し、販売を開始。その後トマトジャムも手掛けるようになりました。

商品は素材の味を大切にし、トマト本来の純粋な味わいを楽しめる瓶入りで、ジュースは桃太郎(大玉)、ジャムにはフルティカ(中玉)を使用しており、令和7年度の熊谷ブランド「晴れまち」の認定品にも選ばれました。

トマトジュースやジャム等は自宅直売所や八木橋百貨店(Plugs Market等)他でも販売しています。

また、当時の講座仲間で結成した埼玉の農産物の美味しさと魅力を伝える「彩農ガールズ」の活動は現在も続いており、今年度、熊谷スポーツ文化公園で開催される「ねんりんピック」や「彩の国食と農林業ドリームフェスタ」にも出展を予定しているとのことです。

久美子さんは、さいたま農村女性アドバイザーの認定も受けており、今後も地域をけん引する活躍が期待されます。



『2026彩の国食と農林業ドリームフェスタ 第22回熊谷市産業祭 第13回くまがや交通安全フェア』

今年度も熊谷市産業祭は彩の国食と農林業ドリームフェスタ、くまがや交通安全フェアとコラボ開催いたします。産業祭エリアでは、熊谷産の農畜産物、加工品、飲食物等の販売を行います。詳しくは、市報11月号と同時配布するパンフレットをご覧ください。





と　き

11月21日(土)・22日(日)
午前10時から午後3時まで
※くまがや交通安全フェアは22日(日)のみ

ところ

熊谷スポーツ文化公園内
(にぎわい広場及び陸上競技場)

農産物共進会開催のお知らせ



第22回熊谷市産業祭において農産物共進会を開催します。

皆様が丹精込めて育てた熊谷産の農産物の素晴らしさをアピールするチャンスです。

また、出品農産物別に優秀賞を選考し表彰します。多くの皆様の出品をお待ちしております。

【出品の範囲(優秀賞対象農産物)】

・主穀(玄米・麦類)・豆類(大豆・小豆・ごま)・芋類(大和芋・里芋)
・野菜類(ねぎ・白菜・ブロッコリー・大根・キャベツ・キュウリ・ほうれんそう・ごぼう・その他)
・果実(果実全般)・農産加工品(味噌・その他)

【出品申込方法等】

・出品物は、市内在住農家の生産物・加工品とします。
・1品目1点とし、1軒につき3品目まで出品できます。
・申込書は、JAくまがや各支店及び各営農経済センターに用意してあります。
・申込締め切りは、10月30日(金)です。
・出品していただいた方には参加賞があります。

※原則として出品物の返却はいたしません。また、取りまとめはJAくまがやで行います。

◆農業政策課　TEL 048-588-9987

収入保険の保険料を一部補助します。

自然災害や販売価格低下など農業者の努力では避けられない損害を補償する収入保険に新規で加入される方に保険料の一部を補助します。

対象者	新規加入者
法人	令和8年4月1日～令和9年3月31日の間のいずれかの日から始まる保険期間に加入した法人 (申込みは保険期間開始の1か月前まで)
個人農家	令和9年収入保険に加入した者（保険期間：令和9年1月～12月） (申込みは令和8年12月18日頃まで)

補助額　保険料の2分の1　百円未満切捨て

上限額　5万円

収入保険加入申込み時に補助金申請を行ってください。

事業期間　令和8年度～令和10年度

補助金申請手続き　埼玉県農業共済組合北部統括支所

問合せ先　農業政策課　TEL 048-588-9990（直通）

令和８年度熊谷ブランド「晴れまち」認定品募集！

市では、市内で生産・製造された優れた産品や、熊谷の魅力を広く発信する農林畜産品、加工品、工芸品及び工業製品を熊谷ブランド「晴れまち」として認定し、PRしています。

令和８年度の募集について、下記のとおりお知らせします。

対象品　•加工品　•農林畜産品　•工芸品、工業製品

募集期間　令和8年10月1日から令和8年12月31日まで

その他詳細は、市ホームページをご覧下さい！

【申請ができる方】

•認定対象の市産品を生産、加工する事業者　•「晴れまちクルー」として登録のある事業者

◆農業政策課　TEL 048-588-9987

令和７年度「晴れまち」認定品のご紹介

「特別栽培米コシヒカリ（栽培期間中農薬不使用）」

西田農園　西田博泰さん、美保子さんご夫妻

大学の農学部を卒業後、実家にて就農した西田農園代表の西田博泰さん。これまで埼玉県知事賞をはじめ農業部門で数々の賞を受賞しています。西田さんは身近な人の体調不良をきっかけに「食と健康」の深いつながりを実感し、農薬を使わない安全な米作りに挑戦しています。

西田さんが大切にするのは「生き物と土」の相互関係です。中干をしない田んぼでは、絶滅危惧種のチャボフラスコモをはじめ貴重な藻類が生息し、酸素を供給するとともに適度に日光を遮り雑草の発生を抑えています。また、生き物同士の相互作用により土そのものも豊かになっていくとのことです。自然の循環が田んぼやお米の安全性を証明してくれると西田さんは考えています。

妻の美保子さんは「美味しかった！元気になった」という声をいただくのが励みになっていますと話されます。西田さんは、「この栽培方法を広めるだけでなく、各々の農家がそれぞれ自然に合う持続可能な米作りをしていくのが理想」と語ります。

今年の新米は、西田農園に事前連絡の上、自宅直売所で購入出来ます。インターネット販売もしていますので、西田農園ホームページをご確認ください。





わらは大切な資源です！焼却の自粛と有効活用のお願い

二毛作地帯において、わらの焼却は地力の低下につながります。わらはすき込むなど、堆肥として土に還元し、地力を高めましょう。

■稲わらの焼却に関する苦情や心配の声が、周辺住民の皆様から多く寄せられています。

交通・安全面：煙による視界不良が原因で交通の妨げになる、道路上へ煙が流れ込み危険である。

生活環境面：延焼の危険がある、洗濯物に臭いがついてしまう など

■周辺の生活環境を守り、安全で快適な地域環境を維持するため、稲わらの野焼き（焼却）は自粛をお願いします。

冬の土ぼこり・野菜残さの飛散防止へのご協力のお願い

冬の強い季節風により、農地からの土ぼこりや、放置された野菜残さ（ネギなど）の飛散に関する苦情が毎年多く寄せられています。

生活環境の保全のため、農地の適切な管理にご協力をお願いいたします。

■主な対策

緑肥作物の作付け：地面を緑肥作物で被覆し、土ぼこりの飛散を防ぎましょう。

残さの適切な処理：収穫後の野菜残さは放置せず、速やかにすき込みや適切な処分を行いましょう。

◆農業政策課　TEL 048-588-9987

女性農業委員・農地利用推進委員座談会

国が定めた第６次男女共同参画基本計画では、農業委員の女性登用率の目標は３０パーセントとされています。来年２月に農業委員、農地利用最適化推進委員の募集が予定されている中、女性委員にお集まりいただき座談会を開催しました。



司会：本日はお忙しい中ありがとうございます。早速ですが、委員になるきっかけや委員になってみて感じたことなどありましたか？

関口委員（以下、関口）：地域の人から女性農業委員の必要性などを説かれて、自分でできることがあれば、と思ったのがきっかけ。

原田委員（以下、原田）：私は、地域の農業法人に勧められて。農業を始めて日も浅く近所の農家もあまり知らないし、委員活動の内容を全然知らなかったので逆にやってみようと思った。

若山委員（以下、若山）：そういう考え方もアリだよね。私もきっかけは周囲からの勧めで委員をやることに。たくさんの人に声をかけてもらったので、まずは一度やってみようかなと。



関口：委員になって感じるのは、多くの人と関わりができたことがすごく良いことだと思う。

原田：そうそう。委員になったからこそ出会えた、ということも多いよね。とても視野が広がったと思う。

若山：そういう面はとてもいいよね。でも自分から委員をやるっていうのはなかなか無いと思う。委員になってすぐ農地のあっせんの話があって、前任者にアドバイスをもらいながら対応したけど、なかなか大変だった。

関口：委員になって９月で2年が経つけれども、まだまだ学ぶことが多いなって思う。農業委員になって外の世界がとても広がったのは私にとって大きな財産だと思う。



司会：農業者から相談を受けたり、相談したりすることは？特に女性からの相談はありましたか？

３人：（女性からの相談を受けたことは）ない。

若山：経営者が女性というのは人数自体少ないし。また、相談を受けてもタイミングや調整などが必要なことが多いから難しい。

関口：逆にこちらがいろいろ相談したいことがあっても、信頼関係が築かれていないとなかなか答えてもらえないこともある。委員には強い心が必要なのかも。（笑）

司会：委員活動を続けていくための工夫などがあったら教えてください。

若山：農作業のほかに食事の支度とか、いわゆる家事は誰かがしなければならないわけで、マルチタスクをできるように心掛けている。

原田：農家さんで男性が経営の中心となっている場合は、家事の分担は女性のことが今も多いように思うなあ。

関口：なかなかそこは変わらないけど、今の若い人は家事を分担したりが当たり前になってきているので少しずつ変わっていくんじゃないかな。

司会：今回の募集に当たって委員に興味がある人に一言お願いします。

若山：農業委員って興味を持ちづらいとは思う。地域をよく知っている方が良いと思う。

原田：総会や農地パトロール、地域計画の話し合いなど時間調整が大変な時もあるけれど、担い手不足や耕作放棄地など課題が多い中、少しでも興味を持った人の力が必要だと思う。



関口：子育てとの両立はかなり難しい部分があり、興味はあっても委員になるまでの決心がつきづらいとは思う。でも、なってみると人とのつながりや視野が大きく広がると思うのでぜひ女性委員としてチャレンジしてほしい。

その経営課題、専門家に相談してみませんか？

農業を取り巻く環境は日々変化しており、その時々の状況に応じた経営戦略を考える必要があります。農業者は一人ひとりが経営者でなければなりませんが、複雑で多様な課題に対して専門的な知識が求められ、1人で解決することが難しい場合もあります。

埼玉県ではそんな農業者の皆さまを支援するため、「農業経営・就農支援センター」という相談窓口を開設し、専門家による無料の個別相談会を実施しています。

今回は過去に寄せられた相談事例をご紹介します。ご興味がある方やご相談をご希望の方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。



事例①

経営継承したい・法人化したい

相談内容

親から経営継承予定であるが、どうしたら良いのか。
経営継承と同時に法人化を考えているが、法人化のメリットはあるのか。

専門家と支援内容

中小企業診断士
設備投資や雇用活用の考え方、経営計画策定支援

税理士
法人化と経営継承に向けた財務・経営上のアドバイスとその手法

社会保険労務士
雇用導入時の注意点、法人化に伴う労務環境整備支援

相談結果

複数回相談を行い、相談開始から５年後に経営継承と同時に法人化を実現。

事例②

新たに従業員を雇いたい

相談内容

これまで家族経営であったが新たに従業員を雇用したく、適切な労務管理について知りたい。

専門家と支援内容

社会保険労務士
関係法令に基づいた労務管理支援、労働保険や社会保険について

相談結果

計２回相談を行い、労務管理の知識を取得。翌年に雇用導入を開始した。



事例③

経営改善をしたい

相談内容

資材費の高騰により近年経営が赤字になってしまっている。何とかしたい。

専門家と支援内容

中小企業診断士
経営実態の把握と課題の抽出、課題解決方法の検討、経営計画策定支援

相談結果

自身の経営を数字で把握したことでロス率低減による経営改善が可能であることがわかった。現在、ロス率低減に向けた手法を検討中。



この他にも様々な相談に対し、様々な専門家の支援が可能です。

まずは一度ご相談ください。



◆大里農林振興センター農業支援部　TEL048-526-2210

よもやま話

海外視察研修に参加して



農業委員
北部第2地区
塚田　修

昭和63年秋、私がヨーロッパ視察研修に参加したときのお話をします。

スペインのマドリードでは闘牛場の見学や石畳の古い町並みに感動し、バルセロナでは今なお建築途上のガウディのサグラダ・ファミリアを見学し、イタリアに移動。ローマでは古代コロセウムや映画「ローマの休日」の名場面トレビの泉及びバチカン市国の寺院の見学など精力的に行程をこなしました。

生ハムで有名なパルマではハム工場を見学しました。バスにゆられついた工場では、原料の肉をデンマークより大型トレーラー10台でピストン輸送しているとのことでした。半年間の塩漬熟成工程を見学、試食もさせてもらいましたが、工場の規模や大きさに唖然としました。

また、フランスでは世界食品機械展示会に足を運び、当時としては最先端の省力化を目指した様々な機械に直接触れることができ、その後の活動に大いに参考になりました。

その他にも、エッフェル塔が19世紀末のパリ万博時に建設された塔だと聞き、かの渋沢栄一翁もビックリしたのではと思いを馳せたり、スイスのマッターホルンでは、ケーブルカーを使い、3,000メートル超えの山の頂まで登り眼下の素晴らしい景色を堪能したりと、たくさんの貴重な体験や新鮮な驚きの連続でたいへん心に残る素晴らしい旅となりました。

農家の変化



農地利用最適化推進委員
北部第2地区
茂木　秀孝

代々続く農家に生まれ、祖父と父は農業委員を務めていました。子供のころは手伝いが多く農業が嫌いで、一度は会社員になりました。しかし、祖父の病気と他界、景気の悪化が重なり早期退職して父の手伝いを始めました。

就農して驚いたことは、地域の農家数の減少や管理出来ていない畑が多いことでした。この状況を放置することもできず、父と相談しその畑を借り受け小麦の作付けを始めました。いつの間にかそうした小麦畑は50ヘクタールまで拡大し、汎用コンバイン２台でやっと刈取ることができる規模になっています。

この地域では米麦の二毛作をしており、小麦の収穫時期に合わせるように6月下旬から田植え用の水が引かれます。そのため、麦刈りから田植えまでの短期間での作業は、毎年大変な苦労を伴い、必然的に機械の大型化と効率化を促しました。

スマート農業で話題のドローンを導入し、除草剤を散布することで田んぼに入って行っていた除草作業が楽になりました。また、ヘリコプターでの殺虫殺菌剤の散布も米の状態に合わせて効率よく行われるようになりました。最新の技術や機械は大きな助けになりますが、これからは使いこなすための高い技術と知識が必要なのだと実感しています。

農業委員・農地利用最適化推進委員になりませんか



令和９年９月から新たな任期が始まることに伴い、農業委員、推進委員の募集を令和９年２月に行います。委員の業務は、あっせんなどを通じて農地の集約化などを進めたり、地域の相談役として農業の振興に貢献したり、農地転用の可否を審査したりと様々な役割を担います。様々な意見を地域農政に反映するため、とくに女性委員の誕生が期待されています。

興味のある方は、農業委員会事務局にお問合せください。

◆農業委員会事務局　TEL 048-501-5501

農業者年金（国民年金に上乗せの公的な年金）に加入しませんか？

次の要件を満たす方ならどなたでも加入できます。

国民年金第1号被保険者 （保険料納付免除者は除く）	年間60日以上 農業に従事	20歳～65歳未満 （60歳以上は、国民年金任意加入被保険者に限る。）

○「終身年金」人生100年時代でも安心(80歳未満死亡時、死亡一時金あり)
○「節税対策」納めた保険料は、全額社会保険料控除の対象

◆農業委員会事務局　TEL 048-501-5501

がん検診を受けましょう！

健康管理のため計画的にがん検診を受けましょう。
熊谷市国保、後期高齢者医療制度などの加入者は検診費用が**無料**になります。
がん検診を希望される方は、事前に地域保健課へ受診券をお申し込みください。

◆お問合わせ　地域保健課　TEL048-526-5737

詳しくは右記コードからご確認ください。

熊谷市ホームページ

特定健診・長寿健診を受けましょう！

熊谷市国民健康保険加入者（40歳以上）、後期高齢者医療制度加入者の方は無料になります。

◆お問合わせ　地域保健課　TEL048-526-5737

詳しくは右記コードからご確認ください。

熊谷市ホームページ

編集後記

秋涼の候、皆様にはご清祥のこととお喜び申し上げます。

今年は、猛暑続きの夏でしたが、実りの秋を迎え、収穫の喜びに包まれる季節となりました。

今号では、市内で生産された農産物を使用し、6次産業に取り組む生産者の活動の一部を紹介いたしました。これからも地域の特色ある農産物や取り組みを紹介し、皆様と一緒に市内の農業を盛り上げていきましょう。

（編集委員　田中　輝久）

編集委員

委員長	森田　豊
副委員長	伊藤由行
委員	福田和行
委員	関口裕美
委員	権田久男
委員	関根一三
委員	中島正樹
委員	茂木秀孝
委員	夏目亮一
委員	田中輝久

農業委員会

農委だより

熊谷市農業委員会　〒360-0292　埼玉県熊谷市弥藤吾2450番地（妻沼庁舎）
TEL 048-501-5501（直通）／ FAX 048-588-1326

この「くまがや農委だより」は、8,400部作成し、印刷経費は1部当たり19.47円です。